

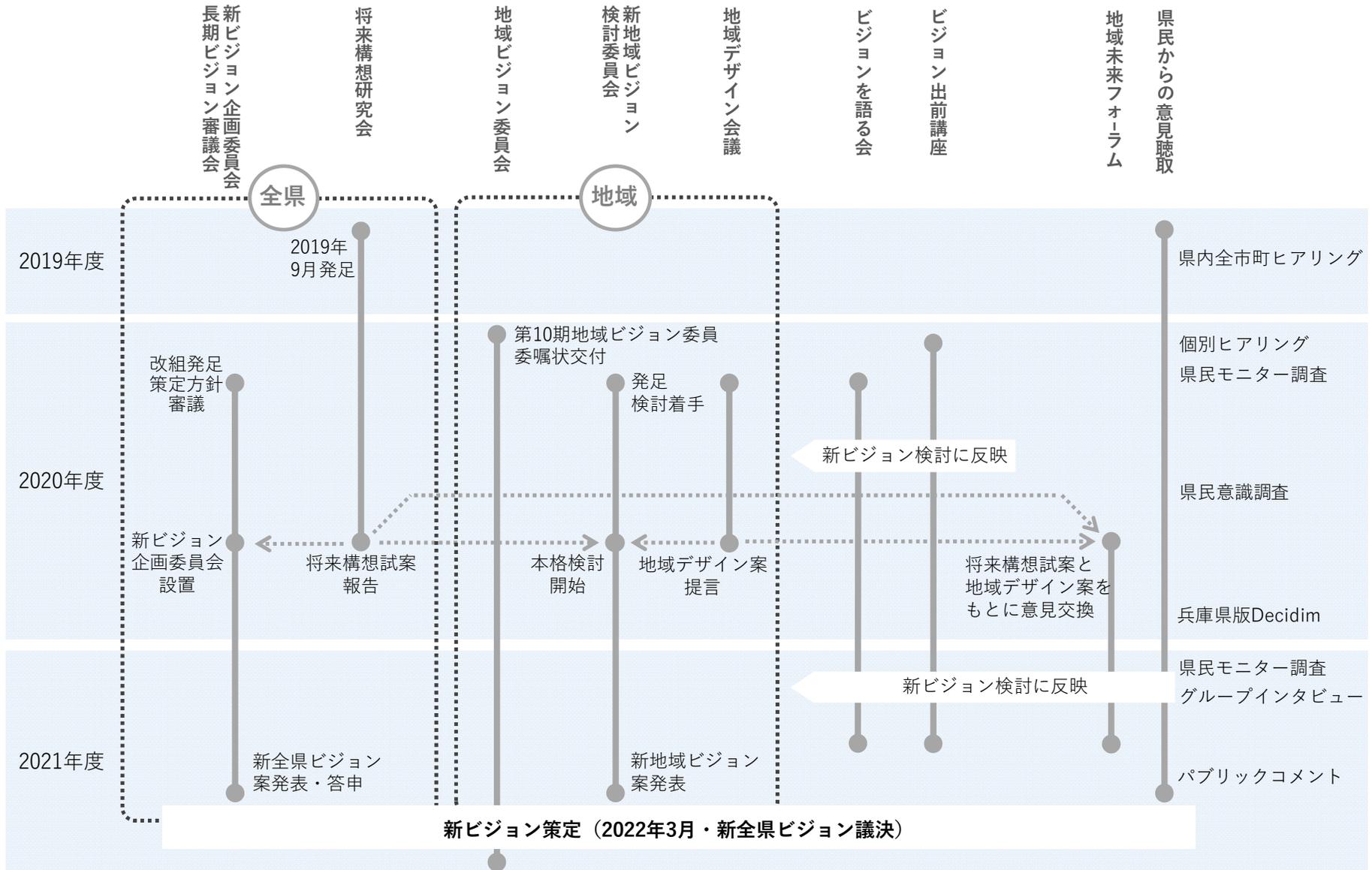
HYOGO VISION 2050

# 新ビジョン策定 のプロセス

「県民が共にめざす姿を描くビジョン」

はどのように描かれたのか

ひょうごビジョン2050 参考資料  
兵庫県



○知事の諮問（意見を求めること）を受け、新全県ビジョンの策定に関する重要事項を審議し、  
2022年2月に答申（意見を述べること）を行いました。

< 検討経過 > 会議を計4回開催（2020～21年度）

2020年7月 第1回（知事の諮問を受け、新ビジョンの策定方針を審議）

2021年2月 第2回（将来構想試案の報告を受け、新全県ビジョンの方向性を審議）

2021年10月 第3回（新全県ビジョン骨子案を審議）

2021年12月 第4回（新全県ビジョン本体案を審議）

2022年2月（新全県ビジョン案答申）



答申手交式（兵庫県庁）

委員氏名		所属・役職	委員氏名		所属・役職
赤澤	宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授<会長代理>	原	孝	兵庫県連合自治会会長
庵途	典章	兵庫県町村会会長（佐用町長）	平田	オリザ	劇作家、演出家
五百旗頭	真	兵庫県立大学理事長<会長>	古山	陽子	P&Gジャパン執行役員
穎川	久美	生活協同組合コープこうべ理事	諸富	徹	京都大学大学院経済学研究科教授
尾山	基	神戸商工会議所副会頭	葭岡	倫矢	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会副会長
勝沼	直子	神戸新聞社論説委員長	吉富	志津代	多言語センターFACIL理事長、名古屋外大教授
笹嶋	宗彦	兵庫県立大学社会情報科学部准教授	吉本	知之	兵庫県社会福祉協議会会長
志智	宣夫	兵庫県商工会連合会会長	井上	哲	神戸地域ビジョン委員会委員長
杉本	直己	甲南大学先端生命工学研究所所長・教授	佐久間	壮仁	阪神南地域ビジョン委員会委員長
摺河	祐彦	兵庫県私学総連合会会長	松元	一路	阪神北地域ビジョン委員会委員長
高品	藤吉	兵庫県農業協同組合中央会専務理事	大川	保	東播磨地域ビジョン委員会委員長
谷口	芳紀	兵庫県市長会会長（相生市長）	山本	和樹	北播磨地域ビジョン委員会委員長
タマシ	カルメン	兵庫県立大学国際商経学部准教授	藤本	忠義	中播磨地域ビジョン委員会委員長
築山	佳永	兵庫県森林組合連合会専務理事	門田	守弘	西播磨地域ビジョン委員会委員長
突々	淳	兵庫県漁業協同組合専務理事	木築	基弘	但馬地域ビジョン委員会委員長
友藤	富士子	兵庫県連合婦人会会長	岸	孝明	丹波地域ビジョン委員会委員長
那須	健	日本労働組合総連合会兵庫県連合会事務局長	山本	益嗣	淡路地域ビジョン委員会委員長

○長期ビジョン審議会のもと、新全県ビジョンの内容を検討する委員会を設置し、3回の討議を経て、新全県ビジョン案を作成しました。

＜検討経過＞ 会議を計3回開催（2021年度）

2021年4月 第1回（新ビジョンのコンセプト、伝わるビジョンのあり方を討議）

2021年9月 第2回（新全県ビジョン骨子案を討議）

2021年11月 第3回（新全県ビジョン本体案を討議）



委員氏名	所属・役職
阿部 真大	甲南大学文学部教授
石川 路子<委員長>	甲南大学経済学部教授
大平 和弘	兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師
織田澤 利守<委員長代理>	神戸大学大学院工学研究科教授
坂本 賢志	(株)アシックス 事業推進統括部 インキュベーション部IoTインキュベーションチーム マネージャー
笹嶋 宗彦	兵庫県立大学社会情報科学部准教授
永田 夏来	兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科教授
野津 直樹	芸術文化観光専門職大学講師
松永 桂子	大阪市立大学大学院経営学研究科准教授
丸尾 智実	神戸市看護大学看護学部准教授

○人口減少・偏在化、県民の価値観の変化、科学技術の進展等の社会潮流の調査研究を行い、  
新全県ビジョンのたたき台となる「将来構想試案」を作成しました。

< 将来構想研究会のメンバー >

委員氏名	所属・役職
阿部 真大	甲南大学文学部教授
石川 路子	甲南大学経済学部教授
大平 和弘	兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師
織田澤利守	神戸大学大学院工学研究科准教授
加藤 恵正 (座長)	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授
笹嶋 宗彦 (座長代理)	兵庫県立大学社会情報科学部准教授
永田 夏来	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科准教授
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科准教授
服部 泰宏	神戸大学大学院経営学研究科准教授

< ゲストスピーカー >

	氏名	役職
第4回	広井 良典	京都大学教授
	福田 幸二	(株)日立製作所
第5回	須藤 一磨	(株)日立コンサルティング
	草郷 孝好	関西大学教授
第6回	西田 純二	京都大学特命教授
第7回	松永 桂子	大阪市立大学准教授
第8回	山中 俊之	神戸情報大学院大学教授
第9回	齊木 崇人	神戸芸術工科大学長
第10回	平山 洋介	神戸大学教授
第11回	山崎 亮	studio-L代表
第12回	西村 和雄	神戸大学特命教授
第13回	諸富 徹	京都大学教授

< 検討経過 > 会議を計14回開催（2019～20年度）

第1回(9/12)	検討方針	新ビジョン検討において重視すべき視点等を討議
第2回(11/12)	人口動態①	将来推計人口をもとに兵庫の将来像を討議
第3回(12/19)	人口動態②	第1回・第2回会議の意見交換結果と市町ヒアリング結果をもとに今後の検討課題を討議
第4回(2/18)	社会潮流 俯瞰①	京都大学・日立製作所と共同で実施したAIによる未来予測の結果をもとに兵庫の未来の方向性を討議
第5回(3/26)	社会潮流 俯瞰②	2002～19年度（18か年分）の県民意識調査の結果をもとに新ビジョン検討で深掘りすべきテーマを討議
第6回(4/15)	社会潮流 テーマ別検討①	分散型の社会構造を支える移動・交通ネットワークの将来像を広域・狭域の双方の視点から討議
第7回(5/20)	社会潮流 テーマ別検討②	産業のデジタル化、働き方の多様化が進む中で、兵庫の産業は何を強みにし、何で稼いでいくかを討議
第8回(6/25)	社会潮流 テーマ別検討③	コロナ危機を契機とした暮らし方や働き方の変化、新しい生活文化の方向性について討議
第9回(7/27)	社会潮流 テーマ別検討④	多様な地域を擁する兵庫が目指す分散型の地域構造の具体像と、その実現に向けた課題を討議
第10回(8/21)	社会潮流 テーマ別検討⑤	家族の姿は今後どうなるか、またこれと不可分な住まいの未来、住まいの保障のあり方を討議
第11回(9/23)	社会潮流 テーマ別検討⑥	人と人のつながりがどう変化し、今後どのようなコミュニティが求められるようになるかを討議
第12回(10/21)	社会潮流 テーマ別検討⑦	人はどんな人生を歩み、どんな力を求められる社会になるか、教育の課題と将来像について討議
第13回(11/17)	社会潮流 テーマ別検討⑧ 取りまとめ①	地域が取るべき気候変動への対応策について討議 将来構想試案骨子案について討議
第14回(12/21)	取りまとめ②	研究会の集大成である将来構想試案について討議

○将来構想研究会の検討成果として2050年を展望する「将来構想試案」を発表（2021年2月）。  
 新ビジョンの方向性を県民と議論する素材とするため、多様な未来シナリオを提示した。

## I 策定趣旨

新ビジョン検討の背景や展望年次、試案のポイント、兵庫県の特長を活かすビジョンとすることを記載

## II 大潮流

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 人口減少・超高齢化 | 4 世界の成長と一体化 |
| 2 自然の脅威     | 5 経済構造の変容   |
| 3 テクノロジーの進化 | 6 価値観と行動の変化 |

## III 新ビジョンの方向性

大潮流、研究会での議論、県民との意見交換の結果に基づき、6つの柱に整理

## IV 未来シナリオ

できる限り大胆に2050年の兵庫をイメージした39の未来シナリオを提示

## V 結び

試案を一つの足がかりに、より良い未来を描き出すための議論が積み重ねられることを期待

### 個性の追求

- 1 自分らしさを追求できる社会
- 2 活力を支える健康
- 3 あふれる学びの場
- 4 沸き立つ起業
- 5 磨かれる五国の個性
- 6 ものづくり産業の革新
- 7 進化する御食国

### 集中から分散へ

- 21 都市と田舎の共生
- 22 自然と共にある暮らし
- 23 自由になる働き方
- 24 軽くなる住まい
- 25 快適になる移動
- 26 進化する自治体

### 開放性の徹底

- 8 多文化が入り混じる兵庫
- 9 世界に貢献する兵庫人
- 10 なくなるジェンダーバイアス
- 11 活躍するシニア
- 12 ユニバーサルな地域
- 13 バーチャルが拓く可能性

### 美の創生

- 27 とともに創るまち
- 28 引き継がれる風景
- 29 甦る豊かな自然
- 30 息づく芸術文化
- 31 広がる生活文化産業

### つながりの再生

- 14 つながりを広げ、深める家族
- 15 楽しく子育てできる社会
- 16 最期まで安心して暮らせる社会
- 17 広がる縁
- 18 スポーツが育むつながり
- 19 進む地域経済循環
- 20 自分たちでつくる地域

### 次代への責任

- 32 人に投資する社会
- 33 開かれた学校
- 34 未知の領域への挑戦
- 35 地域のエネルギー自立
- 36 カーボンニュートラルな暮らし
- 37 危機に強い地域
- 38 安全を支える強靱な基盤
- 39 受け継がれる地域

### 【参考】「AIを活用した未来予測 2050年の兵庫の研究」

将来構想研究会における検討の基礎資料とするため、京都大学（こころの未来研究センター）、(株)日立製作所、(株)日立コンサルティングの協力のもと、両機関が開発したAIによる未来予測手法により、2050年に兵庫の地に出現しうる未来社会のシナリオを描き出すことを目的に本研究を実施。

7つのシナリオが導かれた中で、経済・産業はやや低調ながら、子育て環境や健康、教育、働き方など生活の質が高まり、出生率が回復し、地域の活力も維持され、全体的にバランスのとれた「全地域持続型」のシナリオがもっとも望ましいシナリオと判断。この結果は、分散型社会をめざす方向性を後押しするものとなった。

### ○地域の様々な団体や有志グループと地域の課題や将来像について車座形式で対話

<開催回数> 計95回、約2,100人と意見交換



場所	回数	意見交換を行った皆さま
本 庁	5回	若手経営者の会、県内大学生、商工会議所女性会、商工会連合会、工業会
神 戸	4回	地域デザイン会議メンバー、青年農業士、小売市場連合会、若手有志
阪神南	9回	ツーリズム推進協議会、こくさいひろば芦屋、商工会議所、森の会議、大学生等
阪神北	10回	こみんか学生拠点、経済交友会、商工会議所青年部、コミュニティ協議会等
東播磨	7回	商店街、若手事業家、農業協同組合、商工会議所青年部、高校生等
北播磨	12回	特産品クラブ、商工会女性部、移住者、子育て支援ルームのママ、農業関係者等
中播磨	10回	自治会、観光交流関係者、青年会議所、大学・高校生、PTA・消防団、商工会等
西播磨	12回	商工会議所青年部・女性会、商工会、まちづくり関係者、高齢者文化大学等
但 馬	9回	地域ビジョン委員、青年会議所、子育てママ・パパ、女性農業士、UIターン者等
丹 波	8回	青年会議所、子育てママ、丹波の森大学、青年農業士、若手起業家等
淡 路	9回	女性グループ、温泉組合、建設業協会、企業若手職員、若手市職員等

## ○グループワーク形式等で兵庫の未来を考える出前講座を高校、大学等で実施

<開催回数> 計18回、約2,000人と意見交換



兵庫教育大学で開催



兵庫高校で開催



三田祥雲館高校で開催

### 出前講座開催一覧

県立出石高校	大阪市立大学商学部
県立村岡高校	神戸山手女子高校
県立洲本実業高校	グッドホールディングス株式会社
県立川西明峰高校	兵庫教育大学
県立三田祥雲館高校	灘高校
県立篠山産業高校	関西学院大学法学部・経済学部
県立兵庫高校	甲南大学経済学部
神戸大学農学部	日本技術士会近畿本部兵庫県支部
神戸大学大学院工学研究科	県立夢野台高校

## ○新ビジョンの方向性をテーマに地域別にワークショップや意見交換を実施

<開催回数>

- ・ 7回、約500人と意見交換（2020年度）
- ・ 10回、約100人と意見交換（2021年度）



### <2020年度>

地域	開催日
神戸地域	2/23（火・祝）
阪神南地域	R3/8/1（日） ※コロナにより延期
阪神北地域	※合同開催
東播磨地域	R3/8/8（日） ※コロナにより延期
北播磨地域	2/20（土）
中播磨地域	コロナにより中止
西播磨地域	コロナにより中止
但馬地域	3/28（日）
丹波地域	3/14（日）
淡路地域	3/13（土）

### <2021年度>

地域	開催日
神戸地域	11/26(金)
阪神南地域	10/28(木)
阪神北地域	11/13(土)
東播磨地域	11/20(土)
北播磨地域	11/1(月)
中播磨地域	11/14(日)
西播磨地域	11/9(火)
但馬地域	10/30(土)
丹波地域	11/24(水)
淡路地域	11/12(金)

○ 新ビジョン検討への参画の輪を広げるため、オンラインで意見交換を行う場を設けました。

<経過>

2021年3月 兵庫県新ビジョン検討プラットフォーム（兵庫県版Decidim）を開設

2021年3～8月 兵庫県版Decidimで将来構想試案について意見交換（登録者338人）

2021年12月

～2022年1月 新全県ビジョン「ひょうごビジョン2050」について意見募集



しまきう @SHIMAQ404 21.03.12

賛成

12ユニバーサルな地域について

公共施設のサインや公文書・通知、学校教材など広く一般の県民などが利用するような印刷物・表示にはUDフォント(1)を使用する、ユニバーサルカラーデザイン(2)に基づいた配色とする、などのガイドラインを制定し「ユニバーサルな地域」の実現を図る。また、自治体や企業へのUDフォント導入、ユニバーサルカラーチェッカーの補助を県が行い、導入の推進を図る。

(1) UDフォントとは <https://font.designers-garage.jp/media/ud>

(2) ユニバーサルカラーデザインとは <https://www.dic-graphics.co.jp/navi/color/ud.html>

※以前、漢字が難しい方にお話をお伺いしました。公用文や広報に使われている明朝体やゴシックは読みづらいがUDフォントだととても読みやすいとお伺いしました。一部業界では既に導入が始まっていますので、都道府県として先駆けて統一ガイドラインの制定と補助を行う事が「ユニバーサルな地域」のフラッグシップとして影響力を発揮できると考えます。

返信を非表示

👍👎

参考：Decidimの概要

スペインのバルセロナ市で生まれたオンライン意見交換システム。「決める」を意味するカタルーニャ語にちなんで名付けられ、多様な市民の声を拾い上げて実際の政策に反映させるデジタル・プラットフォームで、ヘルシンキなど世界中の30を超える自治体が利用。国内では加古川市で初導入（一般社団法人コード・フォー・ジャパンが提供）。

従来のようにスレッドを立てて各々が自己の主張を投稿するだけのオンラインの意見交換システムとは異なり、提案に対するポジティブなコメント、ネガティブなコメントを分かりやすく表示することによりディスカッションを引き起こす仕組みを導入し、議論の行方が一目で追えるよう分かりやすいデザインが採用されている。



## ○グループインタビュー

- ・新地域ビジョン検討メンバーを対象
- ・2021年4月に計4回（34人）開催

グループ1	地域ビジョン委員
グループ2	地域ビジョン委員OB
グループ3	新地域ビジョン検討委員会委員
グループ4	地域デザイン会議メンバー



## ○フォーカスグループインタビュー

- ・地域のキーパーソンによる将来構想試案の6本柱ごとの意見交換
- ・2021年3～4月に計6回（41人）開催



## ○個別ヒアリング

- ・地域のキーパーソン、先進的な活動をしている事業者等へのインタビュー
- ・2021年3～8月に計45人へ意見聴取



## ○県民意識調査「兵庫の未来を考える」

- [調査対象] 5,000人
- [調査期間] 令和2年11月19日～12月11日
- [調査方法] 郵送法（ハガキによる督促1回）
- [回答者数] 3,041名（60.8%）
- [調査項目] 理想的な働き方、テレワーク、学校教育で大切なこと、科学技術の発展、期待する地域社会の将来像 など

期待する地域社会の将来像

⇒ 「**介護・福祉、医療**の体制が充実している」が最多

<期待する地域社会の将来像上位5項目>



## ○県民意見提出手続（パブリック・コメント）

- [意見募集期間] 令和3年12月24日～令和4年1月13日（21日間）
- [意見提出方法] 電子メール、Fax、郵送
- [意見提出件数] 94件（27人）
- [意見対応状況] 反映：21件 記載済み：24件 今後の参考：16件 その他：33件

<主な意見>

- ・ 県民のチャレンジを県行政は積極的に応援するということを書くべき。
- ・ 兵庫県民が兵庫県内をもっと訪れてもっと知って五国全土に愛着が持てる未来も大切。
- ・ 大人が正解を決めない、正解だと教えない教育が理想的。
- ・ 相手の思いを知ることによって物の見方や感情が変わるので、話し合いや意見交換をすることが大事だ。
- ・ 五国の特徴を活かした先進的な取組を進めてほしい。
- ・ その時々々の時代に合ったビジョンに進化させていくことを期待。

## ○県民モニター調査を2回実施

### 「兵庫県将来構想試案への意見」

[調査対象] 県民モニター2,190人

[調査期間] 令和3年4月8日～22日

[調査方法] 県ホームページ上のアンケートフォームに入力

[回答者数] 1,073名（回答率49.0%）

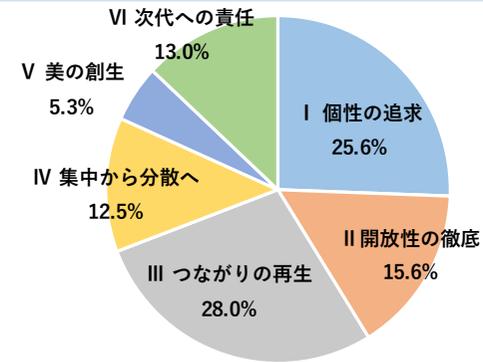
[調査項目] 将来構想試案の39の未来シナリオのうち重視すべきシナリオ3つとその理由

重視すべき未来シナリオ

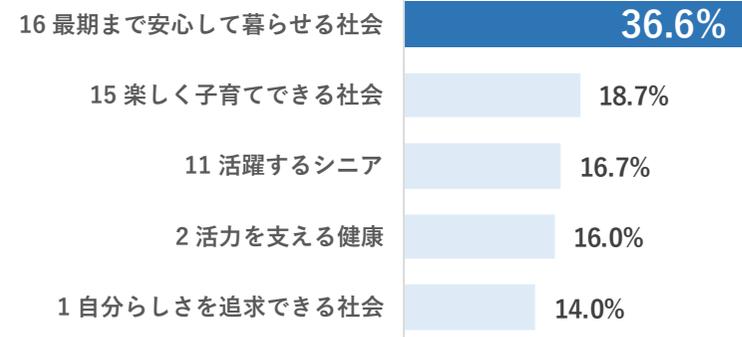
⇒6本柱では「I個性の追求」

「IIIつながりの再生」が拮抗

⇒個別では「**16最期まで安心して暮らせる社会**」が最多



<重視する未来シナリオ上位5項目>



## 「今般のコロナ禍の影響と今後の展望」

[調査対象] 県民モニター 2,130人

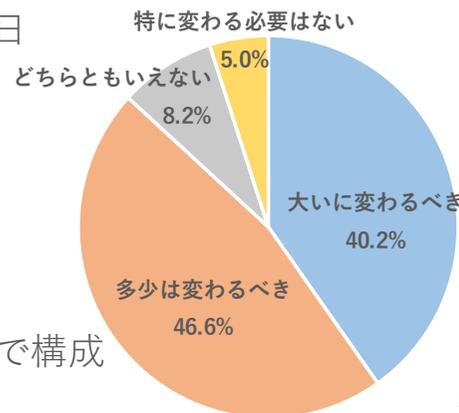
[調査期間] 令和2年6月9日～6月22日

[調査方法] 県ホームページ上のアンケートフォームに入力

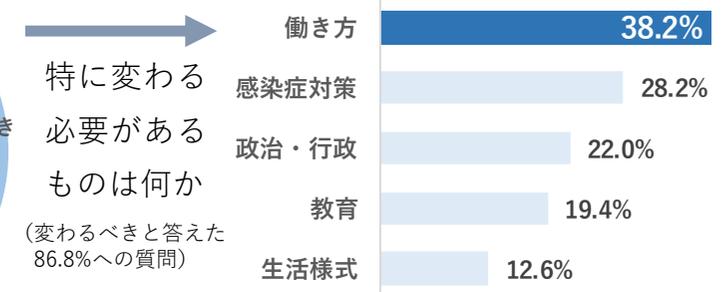
[回答者数] 1,250人（回答率58.7%）

[調査項目] 「生活への影響（問1）」  
「社会のあり方（問2）」  
「自由記述（問3）」の3問で構成

<社会のあり方は変わるべきか>



「働き方」が最多（38.2%の人が選択）



※上記の結果は回答者の年齢構成が高齢層に偏っている点、未成年が対象外である点に留意する必要があります。

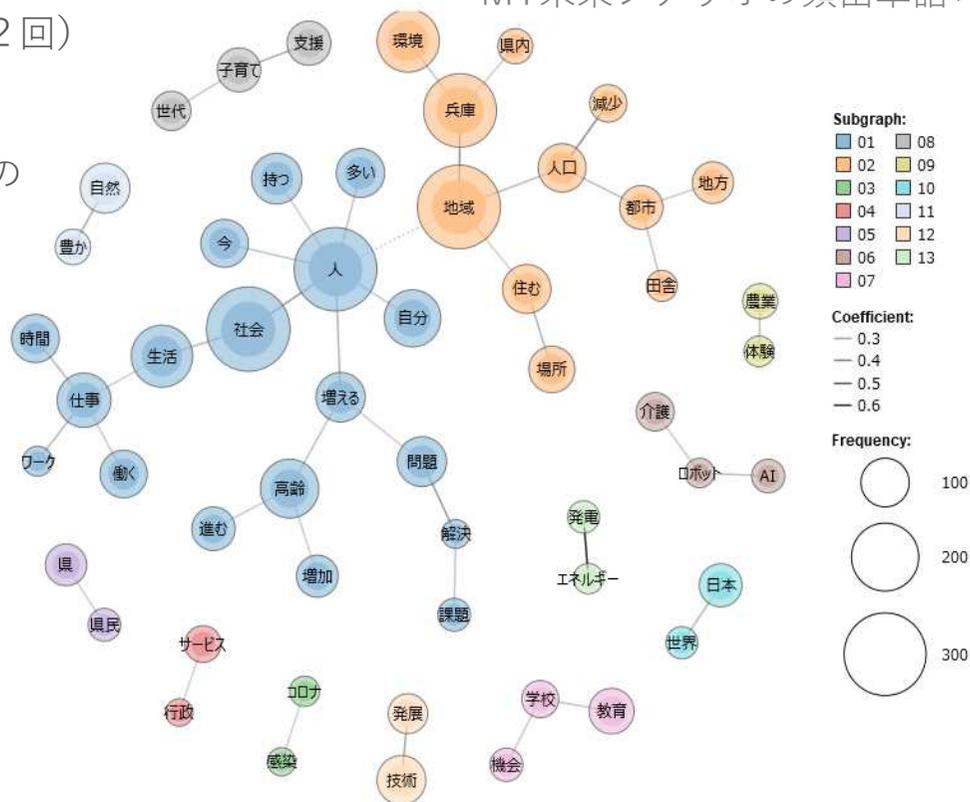
### ○県内市町の意見聴取を実施

- ・市町ヒアリング（全41市町）、意見照会（全2回）

### ○兵庫県庁新規採用職員研修課題

- ・2021年度新規採用職員を対象に将来構想試案の39の未来シナリオに関する意見募集
- ・324人中306人回答

＜新規採用職員が描いたMY未来シナリオの頻出単語＞



＜最も共感した未来シナリオ＞

15 楽しく子育てできる社会	30	1位
1 自分らしさを追求できる社会	27	2位
7 進化する御食国	15	3位
21 都市と田舎の共生	15	
5 磨かれる五国の個性	13	5位
22 自然と共にある暮らし	13	
23 自由になる働き方	13	
25 快適になる移動	13	
14 つながりを広げ、深める家族	12	9位
11 活躍するシニア	11	10位
26 進化する自治体	11	

### ○兵庫県庁若手職員による意見交換会

- ・テーマ「兵庫の未来を考える」
- ・本庁5回計27人、県民局・県民センター11回計101人

＜本庁職員の意見交換から導き出した未来像＞

- 『多様な選択肢が「自由」な生き方と「快適」な暮らしを支える』
- 『多様な人材が内外から集積 強い産業が暮らしやコミュニティを活性化』
- 『誰もが自分が「幸せだ」と感じることを選択できる社会』
- 『パラレルキャリアで「好き」を「しごと」にして“ゆったり”暮らす』
- 『好きな場所で、自立しながら健康に生きることができる社会』
- 『兵庫五国で 望むライフスタイルを選択 多様な価値観が共存』



若手職員による意見交換会

- 新地域ビジョンの策定主体となる「新地域ビジョン検討委員会」を各地域に設置
- 地域の資源や課題の調査、新地域ビジョン案の起草、公開の討議の場の企画運営等を実施

<開催回数>

神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路
3回	7回	8回	5回	6回	6回	7回	6回	10回

地域	委員長氏名	所属・役職	委員数
神戸	星 敦士	甲南大学文学部社会学科教授	14名
阪神	赤澤 宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	18名
東播磨	田端 和彦	兵庫大学副学長	14名
北播磨	田中 雅和	兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授	17名
中播磨	宇高 雄志	兵庫県立大学環境人間学部教授	15名
西播磨	谷口 泰司	関西福祉大学社会福祉学部教授	15名
但馬	草郷 孝好	関西大学社会学部教授	17名
丹波	角野 幸博	丹波の森公苑長、関西学院大学建築学部教授	15名
淡路	山本 聡	兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科教授	15名

計140名

- 県民有志が討議を重ねて将来の地域デザインを描くワークショップ
- 県民が感じている地域課題、県民が望む生き方や地域の将来像を抽出し、  
新地域ビジョン案の検討につなげる。

神戸地域	〔参加者〕 神戸在住・在学の学生10名と神戸で先進的な取組を展開する企業人・起業家11名 〔進め方〕 学生・企業人の各グループ会議と合同会議全5回開催
阪神地域	〔参加者〕 阪神地域に在住、または在住・在学経験のある20代～40代社会人20名 〔進め方〕 全体・個別ミーティング全8回（テーマごとに4チームに分かれ検討）
東播磨地域	〔参加者〕 東播磨地域にある高等学校（全5校 約310名） 〔進め方〕 各高校の探究授業などで調査、研究された地域の課題に対する提言発表を活用
北播磨地域	〔参加者〕 北播磨在住・在勤・在学、または北播磨地域の将来像に関心のある20～40代の43名 〔進め方〕 全5回、テーマごとに実施
中播磨地域	〔参加者〕 中播磨地域に在住、または在勤・在学している10代～80代24名 〔進め方〕 全5回のワークショップにより中播磨の魅力・課題の整理、将来像の提案を取りまとめ
西播磨地域	〔参加者〕 西播磨地域に在住の30代～70代 30名 〔進め方〕 計5回のワークショップを通じ、西播磨の課題・魅力の整理、地域のなりたい姿を検討
但馬地域	〔参加者〕 但馬地域在住の10代～70代の一般県民の89名 〔進め方〕 ワークショップ全3回、議論を踏まえ、新地域ビジョン検討委員会（17名）で検討
丹波地域	〔参加者〕 丹波地域に在住の20代～40代社会人や大学生55名 〔進め方〕 丹波地域の2050年の未来のアイデアを1,000個生み出し、冊子化 全5回
淡路地域	〔参加者〕 淡路島内在住・在学の10代～60代 計24名 〔進め方〕 計3回のワークショップの開催とオンラインミーティングを通じて地域デザイン案を検討